

令和5年度 指定管理施設評価票

1 基本情報

(令和6年3月31日時点)

施設名	港区立高齢者在宅サービスセンターサン・サン赤坂						
指定管理者	社会福祉法人東京聖労院						
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日 ~ 令和 9 年 3 月 31 日						
募集方法	公募	グループ化の有無	○	利用料金制の採用	○	使用許可権限の付与	—
施設所管課	保健福祉支援部高齢者支援課						

2 職員体制

(単位：人)

	正規	常勤	非常勤	非正規	常勤	非常勤	委託（シルバー人材センター等）	合計
職員数	12	12	0	7	1	6	4	23
		令和4年度	令和5年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考	
正規・非正規職員の退職者数		0	3					

3 指定期間における事業実績

事業実績	令和4年度	令和5年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考
延利用者数（人）	8,046	8,488				

4 指定期間における経費実績

(単位：円)

項 目		令和4年度	令和5年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考
経費実績	収入	109,406,864	122,273,625	0	0	0	
	指定管理料（清算後）	17,053,545	21,200,751				
	利用料金収入	91,737,225	97,841,942				介護保険収入
	その他収入	616,094	3,230,932				高齢者緊急一時保護・補助金収入・受入研修費収入・雑収入・国庫補助金等特別積立金取崩額
	支出	115,378,390	122,019,515	0	0	0	
	職員人件費	86,809,769	84,719,273				
	光熱水費	3,207,704	2,932,710				
	修繕費	1,200,323	3,306,182				
	事業運営費	8,238,466	10,220,545				
	施設管理経費	13,727,944	18,130,200				
	その他経費	2,194,184	2,710,605				
差引収支額	-5,971,526	254,110	0	0	0		
年度協定書で定める指定管理料		19,600,973	22,125,017				

5 管理運営状況に対する評価

項 目		評価視点	指定管理者による評価	区による評価		
				評価	加算	点数
【施設の維持管理】	① 設備機器の保守管理	仕様書等に従い、適切に設備機器の保守管理が行われ、利用者の安全・安心が確保されていたか。	- / -	- / -	×1	- / -
	② 清掃及び衛生管理	仕様書等に従い、適切に清掃及び衛生設備の保守管理が行われ、施設が清潔に保たれていたか。	- / -	- / -	×1	- / -
	③ 修繕対応	迅速に修繕がなされ、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	5 / 5	×1	5 / 5
【事業運営】	④ サービスの向上	事業計画書で定めた事業を適切に実施するとともに、公募時の提案や利用者に声を事業に反映するなどサービス向上を図っていたか。	5 / 5	5 / 5	×5	25 / 25
	⑤ 職員配置	事業計画書等で定めたとおり、必要な知識や技能を持った職員が適正に配置されていたか。	5 / 5	5 / 5	×2	10 / 10
	⑥ 人材育成	施設長や職員に対する研修などにより、サービスの向上に向けたスキルアップに取り組んでいたか。	5 / 5	5 / 5	×1	5 / 5
	⑦ 労働環境	区が定める最低賃金水準等を遵守するとともに、ハラスメントが通報されないなど、職員にとって良好な労働環境が確保されていたか。	5 / 5	5 / 5	×2	10 / 10
	⑧ 安全管理・危機管理	施設の日常安全点検を実施するとともに、災害や事件・事故発生時の体制や対応の確立などにより、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	3 / 5	×3	9 / 15
	⑨ 個人情報保護・情報セキュリティ	個人情報や情報セキュリティの社内規程を整備し、区の規程とともに遵守して、適正に運用していたか。	5 / 5	5 / 5	×1	5 / 5
	⑩ 区施策への協力	高齢者や障害者の雇用促進、区内事業者の活用、施設の省エネ促進等、区の施策を理解し積極的に協力していたか。	5 / 5	5 / 5	×3	15 / 15
区による評価合計点						84 / 90

【各項目の評価について】

- 5点：当該項目に係る事項については、充実した取組が展開されていた。
 3点：当該項目に係る事項については、概ね適切に取り組んでいた。
 1点：当該項目に係る事項については、更なる取組の推進が必要であった。
 ※複合施設の入居施設等で、当該施設の指定管理者が設備機器の保守管理等を直接実施していない場合、該当項目は「－：評価対象外」とします。

指定管理者による自己評価	令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことに伴い、感染症対策を継続させながら徐々にコロナ前の活動に戻していきましました。児童との交流やおやつ倶楽部・映画上映・習字・餅つきなど季節行事や趣味活動も小グループで活動していただくことで、感染症対策も取りながら提供することができました。 また、ボランティア活動も少しずつ増やして行き5名までのボランティア活動の受け入れを行いました。 令和5年11月から、業務の効率化・職員の負担軽減・人材育成を目的として介護記録ソフトほのほのNEXTを導入しました。令和6年1月下旬からはiPadを使用し、バイタル・体重・食事量の入力を開始し、3月中旬からは連絡ノート作成についてもiPadで作成を行うようにしました。iPadを5台導入することにより各担当者（フロアリーダー・入浴担当・機能訓練・看護師等）が別々に入力を行うことができ、転記作業が削減されています。令和5年8月からはインカムも導入したので、これまでメモで渡していた情報が瞬時に職員内で共有出来る環境も整いました。 令和6年4月からは、ケース記録（介護・機能・看護師・相談員）も完全移行し、業務日誌についても5月からはほのほのNEXTで作成を行い（自動取り込み）電子印をシステム内で行うことで、プリントアウトを行わずに処理していくことができるようになります。また、事故報告書についてもほのほのNEXT内で作成することにより、基本的にプリントアウトはせずに作成していきます。事務連絡についても、基本機能として社内メールを作成することができ、周知事項や職員に個別アプローチもほのほのほを活用して行います。 胃ろう・インスリン注射・バルーンカテーテルなど、医療ニーズがあるご利用者の方をある一定数（毎日1名～2名のご利用者を受け入れる）受け入れたほか、臨時利用の受け入れを積極的に行いました。行事や趣味活動を戻したことにより臨時でご利用したいという声をいただき、なるべくご本人やご家族の希望に沿うように送迎時間も調整し、利用しました。
区（施設所管課）による評価	令和5年度は、感染症対策に気を配りながらもコロナ前の活動状況に戻すべく、納涼祭や運動会等の季節の行事、児童との交流会、おやつ倶楽部・映画上映等の各イベントを積極的に実施していました。その成果もあり、令和4年度と比較し、年間延べ利用者数は400名以上増加し、稼働率も事業所全体で3.8%増となりました。令和6年度以降は、今年度開催できなかった家族会等、利用者に寄り添った更なる行事の拡充を期待します。 人材育成については、業務負担の軽減や人材育成を目的として新たなシステムを稼働し、稼働以前と比較して効率的で各職員のフォローがしやすい体制を導入したことを評価しました。 一方、提案事業以外の積極的なサービス提案や、区と連携した感染症対策は見受けられなかったため、この点、事業者自己評価とは異なる評価としました。

6 評価

令和5年度の管理運営に関する総合評価

S

【総合評価について（項番5における区による評価合計点の得点率）】

- S：施設の管理運営は特に優れていた（90%以上）
- A：施設の管理運営は優れていた（80%以上90%未満）
- B：施設の管理運営は適切に行われていた（60%以上80%未満）
- C：施設の管理運営に改善が必要であった（60%未満）